

令和4年度第2回兵庫県スポーツ推進審議会 議事録

- 1 期日・場所 令和5年3月3日(金) 10:30~12:00
兵庫県民会館 「鶴」
〒650-0011 神戸市中央区下山手通4丁目16-3
- 2 出席者
- | | | | | |
|--------|------|-------|------|--------------|
| (委員9名) | 山口委員 | 長ヶ原委員 | 倉委員 | 鶴木委員 |
| | 恒木委員 | 三上委員 | 山根委員 | 陳委員(リモートで出席) |
| | 榎並委員 | | | |
- (幹事3名) 渡邊主幹(ユニバーサル推進課長代理)
北中幹事(体育保健課長)
田中幹事(スポーツ振興課長)
- (陪席2名) 八瀬兵庫県スポーツ協会事務局長
織邊スポーツ振興課マラソン担当官
- (教育委員会) 稲次教育次長
- (事務局) 土井副課長 柏木主幹
榎木指導主事 蓬野指導主事
- 3 開会あいさつ 稲次教育次長
- 4 委員・幹事紹介 出席者名簿にて紹介
- 5 会長あいさつ 山口会長
- 6 署名委員の指名 署名委員は、鶴木委員、恒木委員に決定
- 7 前回議事録の報告 事務局より説明し、承認
- 8 審議事項
- (1) 令和5年度スポーツ振興団体に交付する補助金について
スポーツ振興課副課長が説明した。
- 9 報告事項
- (1) 第2期兵庫県スポーツ推進計画の令和5年度実施計画について
以下の3点についてスポーツ振興課長から説明した。
- ① 令和4年度 of 取組と成果、令和5年度 of 取組について
 - ② 第2期兵庫県スポーツ推進計画の達成状況について
 - ③ 実施計画における総括指標と関連指標について
- (2) 令和5年度の主要事業について
- ① スポーツ振興課に関する主要事業について、スポーツ振興課長が説明した。
 - ② 神戸マラソンについて、スポーツ振興課マラソン担当官が説明した。
 - ③ 体育保健課に関する主要事業について、体育保健課長が説明した。
 - ④ ユニバーサル推進課に関する主要事業について、ユニバーサル推進課長代理が説明した。

(3) スポーツ行政の移管について
スポーツ振興課長が説明した。

■ 委員の主な意見及び事務局の説明

＜令和5年度スポーツ振興団体に交付する補助金について＞

【鶴木委員】

- 県の予算の情勢が非常に厳しいのは理解しているが、競技スポーツ振興事業だけ非常に多くの減額になっていることについて伺いたい。

【事務局】

- 事業の予算が2億なので、割合にするとそれほど大きな減額ではないと考えている。県は常に事業を見直して予算編成をしており、事務の効率化など競技団体には影響が出ないような見直しを進めて、480万は削減できると考えている。

【山口会長】

- 特別国民大会の特別とはどういう意味なのか。また、近畿ブロック大会の開催で令和5年度は3,500万円となっている。これまで全くなかったのか、昨年だけなかったのか。

【事務局】

- 2年前に鹿児島国民体育大会が予定されていたが、延期となり特別国民体育大会という名称になっている。また、近畿ブロック大会は持ち回りで、来年度の開催地が兵庫県となっている。昨年度は京都府開催だったので、補助金はなかった。

【山根委員】

- はばたンスポーツ基金について、今回から新たに複数年度の支援をするとあるが、その大会は既に行われている大会も対象になるのか。

【事務局】

- 過去に実績のある大会でも、今後、聖地化に向けて開催する大会については認める方向で、現在要項を変更している。

【山口会長】

- ふれあいスポーツ交流館は、神戸市西区にあると思っていたが、西播磨のどの地域にあるのか。

【渡邊主幹（ユニバーサル推進課）】

- 播磨科学公園都市の中に西播磨総合リハビリテーションセンターがある。そこに西播磨特別支援学校の体育館やプールがあり、高齢者や障害者の方がスポーツできる「ふれあいスポーツ交流館」がある。

【三上委員】

- 西播磨総合リハビリテーションセンターの令和4年度のスポーツ事業では、広い道を使ったタンデム体験なども行ったが、令和5年度の補助金を増額した計画について教えていただきたい。

【渡邊主幹（ユニバーサル推進課）】

- 令和5年度からはコロナの影響が少なくなることから、コロナ以前の水準まで引き上げた。引き続き、プールを使用したカヌーの練習など、特色を生かしたスポーツ事業を振興していく。

【三上委員】

- カヌーの人口が減ってきているので、この事業で参加者や体験者が増えると喜ばしい。

【山口会長】

- タンデムなどを開催するには、しあわせの村は公道なので使用することが難しいと聞いたことがあるが、西播磨はどこでタンデムをしているのか。

【三上委員】

- 日本パラスポーツ協会からの補助金の委託を受けて、3カ所でタンデムを行った。加古川の河川敷の防災道路でも行っている。申請が大変だったと聞いているが、西播磨の公道でも行っている。

【渡邊主幹（ユニバーサル推進課）】

- 現在、警察の規制はあるが、タンデムサイクリングについては、全都道府県で公道を走行できる状況にある。西播磨についても私有地だけでなく、西播磨リハビリテーション内の公道でサイクリングの体験会を実施した。

【三上委員】

- 公道を走行するのは危険が伴う。今回の西播磨の公道を使用する際も、警察の規制や厳しいチェックがあったということ、会長から聞いている。

【山口会長】

- 加古川の河川敷は全国で唯一マラソン専用であり、防災公園までの往復コースは車が入ってこないで、タンデムのメッカになれる。しかし、公道でできるようになれば、ユニバーサルデザインが進むので、これからの方向性だと考える。

⇒ 令和5年度スポーツ振興団体に対する補助金について、承認

<第2期兵庫県スポーツ推進計画の令和5年度実施計画について>

【長ヶ原委員】

- 成人のスポーツ実施率について、女性が飛躍的に伸びた要因を伺いたい。このような成功事例から、次の事業展開ができることにつながる。

【事務局】

- 夜に女性が複数でウォーキングする姿をよく見かけるようになった。今年はイオンモールの広場を使ってスポーツ体験会を開催した。引き続きこのような事業を進めていきたい。

【山口会長】

- イオンモールに出前で行くのは、ターゲットが違うところにアプローチをかけていくということになると思うので、良い取組である。

【榎並委員】

- 来年度は、京都女性スポーツの会との交流も計画している。コロナの中で制限されてきたスポーツではあるが、できることから始めるのが女性スポーツのあり方だと考える。これが競技スポーツにもつながることを願っている。

【山口会長】

- 特徴的なこととして、スポーツや運動を60分以上実施する児童・生徒の目標の達成率で、中2女子が100%。成人のスポーツ実施率の向上で女性が112%。女性指導者の割合の増加も128%と、女性のスポーツへの取組が素晴らしい。

【田中スポーツ振興課長】

- 令和4年度の現状値が、すでに令和5年度の目標値を上回っている指標もあるが、新型コロナウイルス感染症の影響もあると考えられるため、策定時の数値でもう少し様子を見たい。

【倉委員】

- 優秀なスポーツ選手が輩出される背景には、裾野を広げることが非常に重要だと思う。令和5年度の新規事業として、幼児の運動習慣づくり推進事業を計画されているので、ようやく幼児のほうに着目されてきたとうれしく思う。

【山口会長】

- コロナの影響により、新体力テストの結果が最低状態に落ちているという報告を受けた。岐阜大学のレポートで、この30年間、小学校1年生から小学校6年生の伸び率は変わっていない。問題は小学校1年生になるときの体力が30年前とではかなり下がっていること。そのような意味で幼児の運動習慣づくりは大事なことである。この事業の委員のメンバーは決まっているのか。

【事務局】

- 現在、検討中であり、倉委員に相談している。

【山口会長】

- 豊岡市は鳥取方式でグラウンドの芝生化を採用しており、全幼稚園、小学校も一部採用している。その結果、新体力テストの結果が上がった。転んでも平気なので、走る力がついたという事例がある。豊岡市のスポーツ振興課の方に委員になってもらい、兵庫方式のようなものが広がるようなことを期待したい。
- 陳委員には但馬地区の幼稚園、小学校が鳥取方式を採用していることを取材して、記事にさせていただくことで、影響があると思うのでお願いしたい。

【陳委員】

- 了解した。いろいろ見て回ってみたいと思う。

【鶴木委員】

- Team HYOGO アスリートキャリアフォーラムへ参加する企業の増加で、20社とあるが新しくどのような企業が参加されたのか。また、成果やマッチングがうまくいったケースがあるのか。

【八瀬スポーツ協会事務局長】

- 女子ラグビーでは、早駒運輸。陸上では籠谷株式会社に参加いただいた。社員として雇用し、選手を育成する。そして指導者を養成する体制を取っている企業に依頼しており、大学生が安心して、働きながらスポーツができる企業を紹介できるような取組を行っている。また、対象が大学3年生ということで、すぐに就職ということは難しいが、去年の参加者で2名がマッチングし就職している。さらに2名が内定をもらい、4月から就職するといった実績がある。

【山口会長】

- 神戸商工会議所に神戸スポーツ産業懇談定例会の時に神戸新聞運動部が持ち込んでこられたアスリートのマッチングがあったと思う。籠谷の陸上競技部やコーチの方も参加していた。神戸新聞もサポートしていたように思う。

【陳委員】

- 陸上担当の記者が選手と話をし、地元で就職したいという声を聞き、籠谷の幹部の方と話をし、最初に3名が採用されてスタートした。今年度も何人か採用されており、実業団選手権の団体で上位に入賞したことから、社名の宣伝にもつながっている。相乗効果も出ており、いい例になっている。

【山口会長】

- 籠谷は、東播地区の中学生に対して、陸上競技教室を実施するなど良い取組である。また、早駒運輸も令和4年度に関西スポーツ応援企業表彰を受賞された。女子ラグビーのワールドカップの日本代表として何名か選出され、成果が出ている。

<令和4年度の主要事業について>

(1) スポーツ振興課

【鶴木委員】

- 競技団体の提案型による選手の発掘から育成強化に対して補助することは、大変よい取組である。一方で、競技団体任せになることで、早期の種目固定につながるような問題もある。アカデミックベースでは、そういったことを防ぐ流れになっているので、競技団体に対してのサポートや指導をお願いしたい。

【長ヶ原委員】

- コンソーシアム地域スポーツ活性化支援事業は姫路だけが行っている。目標の18市町は、非常に時間がかかると思う。素地があると見込んでの数値なのか伺いたい。

【事務局】

- この事業は4年度からの新規事業だが、市町が予算化しないとできない事業である。5年度以降については、4年度当初より市町へ周知しているので、増えることを期待している。市町の様々な関係団体に集まってもらい、一緒に事業を行って欲しいという趣旨なのでこの数値を達成できるように取り組む。

【長ヶ原委員】

- コンソーシアムというのは非常にインパクトがあって、組織として少し高いレベルになるので、構える方も多い。組織ありきではなく、何をやるかというハードルを下げる必要がある。また、姫路はスポーツビジネスコンテストを実施している。こういったイベントを増やして、姫路市の例をベースに発展していくことできる。

【山口会長】

- 姫路市が、最初にコンソーシアムを作って走りだそうとしている。

【恒木委員】

- スポーツ推進委員やスポーツクラブ 21 では老人クラブなどが姫路市全体でグランドゴルフを行っている。かなりの数のイベントを行っているが、コンソーシアムという身構えて拒否される状況である。

(2) 体育保健課

【山口会長】

- コンソーシアムに、部活動の地域移行というテーマが入れば、中体連や地域、保護者が関係してくる。姫路市が進んでおり、神姫バスの子会社が参入するなど、新しい運動部活動指導士の要請も見えてくる。このテーマが入れば、関心が高まってくる。

【三上委員】

- 特別支援学校の子どもたちは、どのように地域移行に参加できるのか。このことについての施策や、情報があればいただきたい。

【北中体育保健課長】

- 特別支援学校に対する対策や情報は現在は入手していない。高等学校は地域移行の対象から外れている。特別支援学校は1つの学校の中で小・中・高と発育発達段階で層があるので、整合性を取ることも今後の議論になってくる。茨城県では、中学校教員も高等学校の教員も、兼職兼業で指導することになるようである。今後、特別支援学校が、土日にどれだけ活動しているかというデータも含めて、検討する。

【三上委員】

- 毎年行われているのじぎく大会で、特別支援学校の参加者が非常に減っていると聞いている。もっと子ども達が活躍できる場所を提供してもらえよう情報発信をお願いしたい。

【山口会長】

- 部活動の地域移行についての情報が、学校まで詳しい情報が入っていない。情報提供がうまくいけば、理解も変わってくると思われる。

(3) スポーツ行政の移管について

【山口会長】

- スポーツ基本法第7条が重要になってくる。国、独立行政法人、地方公共団体、スポーツ団体、学校、民間事業者等が、スポーツ基本法の理念を連携協働して進めることが大切である。文化とスポーツは非常に整合性が高いので、そのような意味でも新たな取組ができると思われる。

10 山口会長 あいさつ

11 閉会

【署名委員】

恒木克仁

鷗木千加子